

学習指導改善に関する取組み

糸魚川市立磯部小学校

本年度の校内研究主題を「自分の考えをもち 学び合う子どもの育成」と設定し、日々の教育活動の確実な実践を通してその具現化に取り組んでいる。自分の考えをもつ、考えを出し合う、意見の交流による集団での学び合いによって考えを深めるという学習過程のある授業を積み重ねることによって、新しい発見や気づき生まれ、一人一人の生きて働く知恵となって定着していくと考える。

これまでに各種の学力調査の結果を学年ごとに分析し、学年およびそれらを基にして見られる全校の課題を明らかにし、改善策を講じてきた。とくに学習指導改善調査については、全職員で採点し、子どもたちに身に付けさせたい力や、今現在不足している力について共通理解を図れるようにした。その上で国語と算数について全校体制で取り組むべきことについて話し合い、授業改善に努めている。以下、取組みについて報告する。

1 各種学力調査の結果分析

(1) 学習指導改善調査の結果から

学習指導改善調査の結果から通過率の低かった問題について取り上げ、その原因やそれを解決するために必要な学習について挙げた。

<国 語>

- ・4年生では、「資料を読み取り、発表原稿に合う資料を選択する力」の通過率が低かった。説明文やレポートを書く教材を中心に、資料の集め方・読み取り方やそこからどんな考えを発表していけるかについて考えるような学習を進めていきたい。
- ・5年生では、「文章の内容を読み取る力」「資料を読み取り、主張に合う資料を選択する力」の通過率が低かった。読み取りでは、説明文を中心に、内容の読み取り方、要旨の押さえ方、要旨を踏まえて主張できることは何かについて考えるような学習を進めていきたい。
- ・6年生では、「相手の問題点を取り上げて反論しながら記述する力」の通過率が低かった。資料を分析的に読んだり、相手の意見をふまえて反論をしたりするような学習を進めていきたい。

<算 数>

- ・4年生では、説明例にそって、キーワードを用いながら説明する力が弱かった。一学期も取り組んできたが、言葉や図を用いながら自分の考えを説明していく力を付けていけるようにしたい。
- ・5年生では、NRT 学力検査で学力が身に付いていると思われる児童でもキーワードを用いながら説明する力が弱かった。今後は、スキルテストなどで基礎・基本的な内容の定着を図るとともに、言葉や図を用いながら考えを説明していく場を積極的に取り入れたり、ノートに言葉で説明や考えを書かせる活動を多く取り入れたりしていきたい。
- ・6年生では、倍積変形や等積変形の操作の説明を適切に言葉で表現できる児童が少なかった。日頃の授業で、式や図の意味を説明できるよう、各自がノートに説明の文を書くような指導を意識して取り入れたい。

全体を通して、取り組む必要のある内容についての話し合い

<明らかとなった課題>

- ・国語では、単に「書くこと」に重点を置くのではなく、「書き方」について系統だった指導をする必要がある。その際、上学年だけでなく、1～6学年までの6年間を見通した「書き方」について全職員で共通理解し、指導に当たることが必要である。
- ・算数では、自分の考えを書かせる活動を積極的に取り入れる。その際、図やキーワードを使って説明できるように指導していく必要がある。

(2) 他の学力調査の結果から

学習指導改善調査以外にも学力検査を実施し、次のような点について指導する必要があると話合った。

<国 語>

- ・分かったことや自分の考えを明確に書く力を育てていく必要がある。自分の主張を明確にすることは、相手に分かりやすく話すことに結び付くと考える。

<算 数>

- ・情報過多の資料から、必要な情報を選択しなければならない問題に誤答が多い。これまでの取組みでは、まず全体で問題の内容を正確に理解させた後、自力解決→集団解決という授業スタイルが多いため、自分で問題の意味や必要な情報を整理するという力が不足している。必要な情報を見極めながら問題場面を自力で整理できるようにしていく必要がある。

2 課題解決のための方策

これまでの各種の学力調査の結果を踏まえると、国語・算数ともに自分の考えを明確にして話したり、書いたりする力を育成する必要があることが分かった。また、その際、各学年の実態に応じて学級担任が方策を考え取り組むのではなく、6年間を見通した指導系統を基に書く力を育てていく必要性を感じた。

そこで、筋道を立てて考えたり、その考えを明確にしたり分かりやすく説明したりできるような6年間を見通した指導のあり方について全職員で協議し、実践に取り組んでいる。

<国 語>

①「書く」ことに関する課題

- ・「はじめ」「中」「終わり」という3つのまとまりは理解できるが、「中」について自分の主張や詳しく書きたいことをふくらませることができない。
- ・資料からわかったことをまとめる際に、自分の考えが乏しい。
- ・相違点、自分の生活との比較、似たような事例…など、様々な観点から自分の考えを深め、それをまとめることができない。
- ・基本的事項（改行、助詞、接続語など）が理解できていない。

②改善策

ア) 各学年での指導事項と重点単元を拾い上げ、重点的に指導する

- ・指導者が各学年の指導事項を再確認し、指導系統をきちんと把握した上で指導に当たるようにする。
- ・重点単元では、子どもたちにも指導事項を意識させながら学習を進める。

【指導事項と重点単元一覧表】

学年	指導事項	重点単元	備 考
1	ア相手や目的を考えながら、書くこと イ書こうとする題材に必要な事柄を集めること ウ自分の考えが明確になるように、簡単な組立てを考えること エ事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと オ文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに注意すること	どうぞよろしく たんけんしたよ、みつけたよ ことばを入れて文をつくろう は、を、へを使って書こう すきなものおしえて みんなに知らせたいこと 知らせたいな、見せたいな あつまれ冬のことば おみせやさんごっこ どうぶつの赤ちゃん いいこといっぱい、1年生	
	ア相手や目的を考えながら、書くこと イ書こうとする題材に必要な事柄を集めること ウ自分の考えが明確になるように、簡単な	今週のニュース かんさつ名人になろう もうすぐ夏休み 見たこと、かんじたこと	

2	<p>組立てを考えること</p> <p>エ事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと</p> <p>オ文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに注意すること</p>	<p>こんなお話考えた</p> <p>ことばであそぼう</p> <p>楽しかったよ、2年生</p>	
3	<p>ア相手や目的に応じて、適切に書くこと</p> <p>イ書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること</p> <p>ウ自分の考えが明瞭になるように、段落相互の関係を考えること</p> <p>エ書こうとする事を中心を明確にしなが</p> <p>ら、段落と段落との続き方に注意して書くこと</p> <p>オ文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりすること</p>	<p>きつつきの商売 (イ)</p> <p>おもしろいもの、見付けた (イ、ウ)</p> <p>様子を伝える</p> <p>本はともだち (ア、イ)</p> <p>食べ物はかせになろう (イ、エ)</p> <p>せつめい書をつくろう (ア、ウ、エ)</p> <p>たから物をさがしに (エ、オ)</p> <p>漢字とともだち (イ)</p>	
4	<p>ア相手や目的に応じて、適切に書くこと</p> <p>イ書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること</p> <p>ウ自分の考えが明瞭になるように、段落相互の関係を考えること</p> <p>エ書こうとする事を中心を明確にしなが</p> <p>ら、段落と段落との続き方に注意して書くこと</p> <p>オ文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりすること</p>	<p>四年三組から発表します</p> <p>生活を見つめて</p> <p>表やグラフにまとめる</p> <p>つぶやきを言葉に</p> <p>ごんぎつね</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者がテーマを設定して ・100字程度の短い文を書かせる ・メモを取る ・目的や中心をはっきりさせて文を書く場合、200字程度で書く練習を
5	<p>ア目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと</p> <p>イ全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること</p> <p>ウ自分の考えを明瞭に表現するため、文章全体の組み立ての効果を考えること</p> <p>エ事象を感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること</p> <p>オ表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること</p>	<p>お願いの手紙、お礼の手紙 (ア、ウ、オ)</p> <p>言葉の研究レポート (イ、ウ)</p> <p>人と「もの」との付き合い方 (ウ、エ)</p> <p>工夫して発信しよう (ア、イ、エ)</p> <p>編集して伝える</p> <p>物語を作ろう (オ)</p> <p>どんなとき、だれに (オ)</p> <p>大造じいさんとガン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の基本的構成「はじめ」が50～100字、「なか」が200～250字、「おわり」が50～100字を意識 ・立場を明確にした書き方ができるように繰り返し指導
6	<p>ア目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと</p> <p>イ全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること</p> <p>ウ自分の考えを明瞭に表現するため、文章全体の組み立ての効果を考えること</p> <p>エ事象を感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること</p> <p>オ表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること</p>	<p>ガイドブックを作ろう</p> <p>よりよい文章に</p> <p>本は友達</p> <p>みんなで生きる町</p> <p>自分の考えを発信しよう</p> <p>感動を言葉に</p> <p>わたしたちの言葉</p> <p>今、君たちに伝えたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時数や時間を制限した書く経験をさせる(3分間で、5行。このキーワードを入れて3文以上) ・400字の場合 はじめ：2～3行 なか：14～16行 おわり：2～3行

イ) **基礎基本タイムで観点を意識して、継続的に作文学習をする**

- ・観点を予め伝えて、15分間のミニ作文を書く。
例…「昼食は、お弁当がいいか給食がいいか」
「1分間の先生の行動を見て、その様子をできるだけくわしく書く」
「家族の1人を先生にわかりやすく紹介する」
「私が今までで一番感激したこと」
- ・観点を意識した作文を週1回書き、月末の作文では、その観点に基づいて評価する
→その評価を子どもに返すことで、「よりよい作文を書こう」という意識が生まれる。

ウ) **日常的な「書く」活動を増やす**

- ・朝の日直スピーチに対して、感想・話のまとめ・意見などを短く書く。
(書いてもらった人が印を押して確認・・・その場で評価)
- ・各教科の授業の終末に「この授業でわかったこと」として、自分の理解したことや感想、疑問などをまとめる。
- ・終会時に「3行日記」などとして、その日1日の自分を振り返り、感じたことや活動の自己評価など書く。
(専用のカードだけでなく、連絡帳も活用する)
- ・その他にも書く活動に関する情報交換をし、積極的に書く活動を取り入れ、日常化を図る。

<算 数>

①課題

- ・「なぜそう考えたか」を多様な表現方法(図、表、式、言葉)で説明できるようにしなければならない。
- ・与えられた情報の中から、必要な情報を見極めるなど、問題場面を自分なりに整理して考える力を身に付けなければならない。

②改善策

ア) **各学年で身に付けさせたい力を明確にする**

- 低学年・・・○具体物・半具体物の操作活動による考え方を、図や式、言葉で表すことができる。
○全体の中で教師に対して自分の考えを説明できる。
- 中学年・・・○少人数のグループ活動の中で、自分の考えを図や表、式や言葉で説明できる。
○自分の班の友達やクラスの友達が分かるように説明できる。
- 高学年・・・○全体の中で、友達に対して自分の考えを論理的に説明できる。(まず、～)
○情報過多の問題でも、自分で問題場面を整理して考え、筋道を立てて答えを導くことができる。

イ) **各学年で重点的に取り組むこと**

- 低学年・・・具体物で操作したことを、図で表す活動を意図的に設定し、図で表すことに慣れさせる。
- 中学年・・・「自分の班の友達が理解できる説明の仕方」を意識させる。
例えば・・・班の代表者を教師があとで無作為に決める。
これにより→話す人「相手が分かるように話そう」、「本当に相手が分かったか確かめよう」聞く人「班の代表になっても説明できるようにしっかり聞こう」という意識が高まる。
- 高学年・・・情報過多の問題を意図的に設定し、必要な情報を見極めながら問題場面を自力で整理できるようにする。
例えば・・・「この問題を解くために必要な情報はどれでしょう。」

6年間を見通した指導系統をはっきりさせたことにより、全校体制での授業改善につながっている。また、上記の改善策を取り上げた研究授業を全学級が公開し、よりよい方策についてさらに検討し、実践に努めている。

3 実践例

<書く力を育てる実践例>

観点を意識し、継続的に取り組む作文学習

毎日、15分を1ユニットとしてスキルタイムを設定している。この時間では、漢字や計算、読書、作文などに取り組み、基礎的な内容の定着をねらっている。今年度は、教科での作文指導や様々な活動の中での書く活動を重視するだけでなく、この作文の時間を充実させようと職員で様々な取り組みを紹介しあい、書く力の育成に努めている。

◇取り組みの概要

- ・週に1回、与えられたテーマに沿って題を決め、作文を書く。
- ・作文を書くときは、採点基準となる観点をあらかじめ提示し、その観点を意識しながら作文を書くようにする。
- ・観点は、時間・字数・段落・題にそった内容になっているかなど、学年やテーマに応じて決める。
- ・提出された作文についてコメントを入れて、必ず返却する。コメントは、「楽しく遊べてよかったね」「遊んでいる様子が詳しく書けていますね」という情緒的なコメントだけでなく、合格している観点は何か、合格できなかった点は何かについて、言葉や点数で書くことにする。
- ・月に1回、45分間かけて400字程度の作文を書く。そこで、それまでに示された観点（例えば、必ず「」を使って書く、三段落にする、など）がきちんと身に付いているか、自己評価もできるようにする。

◇子どもの変容

学年にもよるが、一回の作文指導でたくさんの観点を提示すると観点が気になり、書く意欲が減退してしまう。日々の学習の積み重ねで身に付いていくと考え、観点を精選して取り組ませるようにしてきた。字数の制限は、低学年の子どもでも分かりやすく、作文用紙の最後の行やマスまで書こうと努力するようになった。最後まで書くことが文章量の増加につながり、それが詳しく書こうという意欲にもつながった。

高学年では、ただ作文用紙をうめるように思いつくままに書いていた子どもたちも、題を決めて書く内容をはっきりさせたり、段落を意識したりすることによって伝えたい・書きたい内容が明確になった作文を書くようになり、自分の考えや思いが表れた作文を書けるようになってきている。また、観点について評価されることで子ども自身が、何ができて、何ができていないのかがはっきり分かり、作文の書き方を学ぶことができた。

<自分の考えを説明する力を育てる実践例>

自分の考えを明確にする書く活動

なぜそう考えたのか、自分で説明できるような授業展開を試みてきた。研究授業を通して、全学年で自分の考えを明確にするための方策について実践を積み重ねてきた。

低学年では、発問に対してすぐに言葉を出してしまう子、じっくり考える子など個人差が大きい。すぐに出てきた反応だけで授業を展開してしまうと、全員が理解しないうちに終わってしまう場合がある。そこで、1年生から課題に対して、まず自分の考えを書き、それを基に話し合いをするような授業展開を全学年で取り組むことにした。

1年生の算数科「10よりおおいかず」の実践では、「ぱっと見て分かる」を合言葉にばらばらに配置された13個のイチゴを数え、数え方について話し合うことで10のまとまりとばらの数に分けて考えるよさに気付く授業を展開した。ばらばらに配置されたイチゴの絵がプリントされたシートにそれぞれの数え方をかいていった。1個ずつ印をつけて数え上げていく子、2個ずつ丸で囲んで2とびで数えていく子、さらに10個のまとまりで囲み、10とばらに分けて数える子、10個をまとめると残ったのは3個なので全部で13個だと分かります、と文章で説明を加える子など、多様な数え方をし、自分なりに考えを表現した。自分の考えを図や文に表す活動は、みんなの前で自分の考えをすぐに言えない子も自分の考えを明確にすることができる。また、自力解決に至らない子も何が分かっている、何が分からないのかをはっきりさせるこ

とができる。自分の考えを明確にすることで練り上げの場では、友達の考えを自分の考えと比較しながら聞くことができ、学びを深めていくことにつながっていった。

自分の考えを話す場の工夫

日々の授業の中でそれぞれの考えを出し合い、意見交流したり話し合ったりすることで学びを深めていくことができると考え、自分の考えを説明できるようにすること、意見発表ではなく意見交流となるような場のあり方についても研修を進めてきた。

集団での練り上げの場では、個々の考えを発表する場を意図的に取り入れているが、単なる意見の発表にとどまっていたり、どの子も発言できたりするわけではなかった。自分なりに考えをもてたとしてもそれをみんなに伝え、充実した話合いがなければ、学びが深まっていけない。そこで、意見を出しやすい場について全学年の実践を検討した結果、6年間の系統が明らかになってきた。

低学年の場合、子どもたち同士で話し合いを進めたり、その話合いでそれぞれの考えの違いに気付いたり深めたりしていくには、かなりの指導を要する。教師がある程度、考えを整理したり、意図的に指名したりすることが必要であった。中学年では3～4人の少人数での話合い活動を取り入れ、どの子も自分の考えを説明したり、友達の考えとの違いに気付いたりできるようにする。その後、そこでの意見交流を基に全体でも意見交流をすると考えをより深められることが分かった。中学年でここまでできるようになっていると、高学年では、自分の考えを全体の中で分かりやすく説明したり、自分の考えと比較しながら友達の意見を理解したりできるようになることが分かった。すなわち、6年間を見通して「個→グループ→全体」と段階を踏んでいくことで、自分の考えを発表する意欲が高まっていく。個々の考えが活発に出されることは、充実した意見交流、学びの深まりへとつながった。

4 成果と今後の課題

日々の授業改善への取組みの中で、自分の考えを書いたり、その考えをもとに意見交流したりする場を大切にして学びを深められるようにしてきた。その中で自分の考えを明確にした後の意見交流の場では、以下のような教師の支援が必要なことが分かった。

○自分の考えに自信をもたせること

- ・自力解決の時間を確保しつつ、一人ひとりの考えを把握するために机間巡視をする。その際、「こう考えたんだね」「このやり方は、いいね」などと声をかけ、考えを整理したり、自信をもたせたりする。こうすることで、個々の考えが活発に出され、充実した意見交流へつながる。

○個々の考えをみとり、そのみとりを生かすこと

- ・一人ひとりの考えを把握した上で、発表させる内容や指名順を考えた集団での練り上げの場にする。

○学習内容を考慮した「ゆさぶり」をかけること

- ・全員が模範的な解答に至っていても表面的な理解にとどまっている場合もある。そこで、教師が反対の考えや間違いやすい内容をあえて提示し、なぜそれがよくないのか考えさせたり説明させたりすることで内容をより理解させることができる。

○子どもの意見を意味付けて返すこと

- ・子どもの説明が不十分な場合には補足したり、個々の考えの違いを明確にしたりするなどして、一人ひとりの意見を大切に、意味付けて返すことを心がける。

○多様な振り返りの方法を工夫すること

- ・振り返りの場面では、キーワードを提示し、一時間の学習内容をまとめさせることも、学習内容の理解を深めることに役立つ。ただし、どんなキーワードを提示するか、そのキーワードでどんなまとめ方をねらうのか、学習内容を考慮して決めておくことが大切である。

一方で、集団で練り上げる場では、何について話し合うのかが明確でないと活発な意見交流ができないことも明らかとなった。本時は何について考える時間なのか、児童がきちんと把握できるような学習課題が大前提なのである。課題が明確でないと、話合いも学びも深まらない。改めて「分かりやすい課題か」「立場が明確になり、発表したくなるような課題か」「興味関心のもてるような課題提示になっているか」について、常に意識して授業を構想することが課題として明らかになった。